

2016年2月

公共図書館資料購入費増額に向け、出版界も応援します。

一般社団法人 日本書籍出版協会

2015年「図書館と出版」を考える、報告集をお送りします。ご一読ください。

図書館で一冊の本に出会うことを、本の創造の循環に携わるすべての人たちは、とてもたいせつなことと思っています。一冊の本との出会いにより新しい未来が開かれ、さらに次への新しい創造が生まれる。長い時間をかけて図書館に集積された資料は、すべてがそうした可能性をもって読まれる時がくるのを待っています。時代とともに図書館に求められる役割が変わりサービスが深化しても、図書館に必要とされるのは多様な資料群であり、その資料をそれぞれの地域の利用者に提供する図書館員の方々の存在にほかなりません。

現在、図書館における課題のひとつが資料購入費の減少であり、そのことが資料選定や利用者へのサービスに対してさまざまな苦勞を生んでいることは、本の創造の循環に携わる私たちにとっても大きな課題であると認識しています。

昨2015年、日本書籍出版協会は文部科学大臣あてに「公共図書館の資料購入費の増額に関してのお願い」と題する文書を手渡しました。その中でわれわれは、図書館と出版界は相互補完的な表裏一体の関係にあること、最近10年間で公共図書館の数は421館増加している一方で、資料購入費の総額は約70億円も減少していること、資料購入費の減少は、貸出中心の傾向をもたらしかねず、人材面にも影響を与えていること等を訴え、社会教育の充実という観点から、資料費増額に関して文部科学大臣のご尽力をお願いしました。

著者・出版者・流通、一冊の本に込められた知識や知恵の結晶を未来の創作へとつなげ育てていくための努力を、社会の読書基盤として必須の図書館の皆さまとともにさらに継続していきたいと考えています。

問合せ先：一般社団法人日本書籍出版協会・調査部（Tel 03-3268-1303）